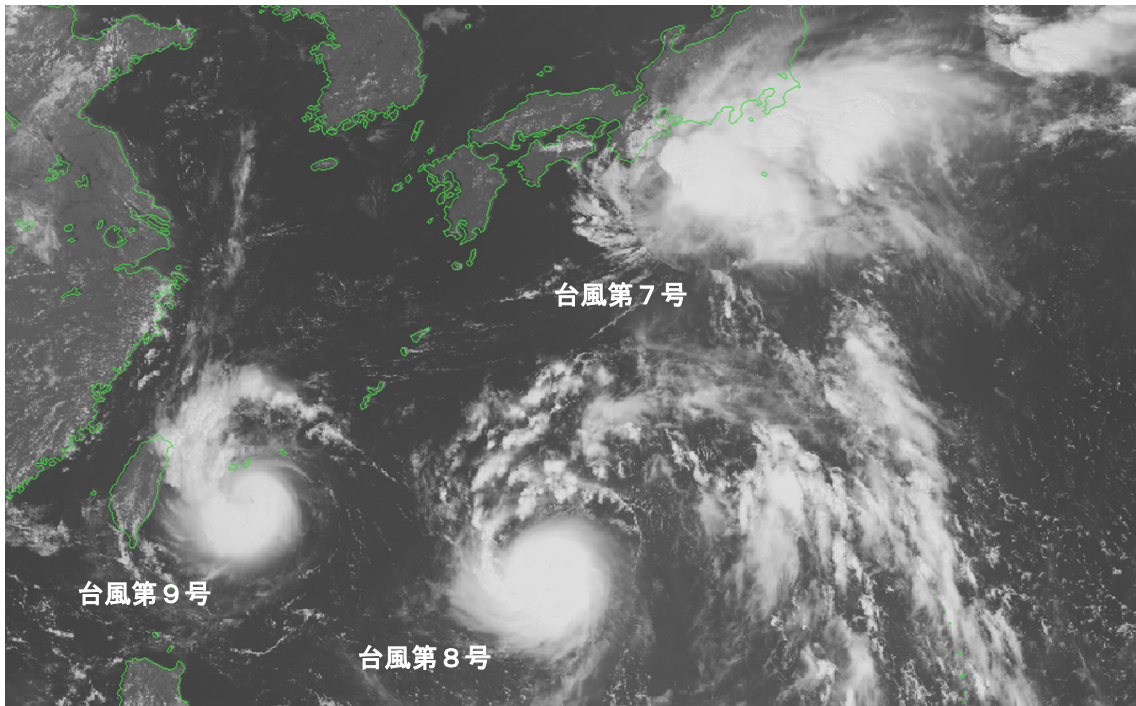


## 今月の気象衛星画像 (2006年8月)



(可視画像 (2006年8月8日12時))

同時に日本に接近した3つの台風

台風の年間平均発生数は26.7で、この内、日本に接近する台風の数は10.8である。月毎の平年値(1971～2000年)で比較すると8月が最も多く、発生数5.5・接近数3.4となっている。今年8月の台風発生数は7つで、この内、日本には5つの台風が接近しており、8月だけを比較すれば平年を上回る台風の発生数と接近数であった。

今回は、3つの台風がほぼ同時に日本に接近するという比較的珍しい事例があったので紹介する。

画像は、8月8日12時の可視画像である。日本の南の海上には、台風第7号・8号・9号があり、それぞれ日本に接近しているところを捉えた画像である。この中で、東海沖にある台風第7号は、父島近海(北緯25度付近)の比較的高緯度で発生したため発達が弱く、既にこの時刻には、活発な積乱雲が中心から東側に剥がれ衰弱期に入っている。しかしながら、この台風第7号は、8日から9日にかけて石廊崎で338ミリ・伊豆市天城山で368ミリと東海地方や関東地方南部に大雨をもたらした。衰弱期にある台風といえども、大雨や強風により甚大な被害をもたらすことがあるので嚴重な警戒が必要である。

(気象衛星センター)